マーケットキーワード
SMAM
（No.1,902）
〈マーケットレポートNo.4,995〉
2016年9月8日
情報提供資料
資産形成なら SMAM

今日のキーワード 「マグロ」の漁獲高規制（日本）

「マグロ」は、寿司ネタをはじめとして、日本の食卓には欠かせない食材です。「マグロ」は、常温では腐敗や変色しやすいため、昔は珍重されていませんでしたが、冷凍技術や輸送インフラの発達により、今日では高級魚の代表格となっています。その「マグロ」に、資源枯渇の問題が発生しています。世界的な「マグロ」の需要の高まりを受けて、乱獲の問題が発生しているためです。日本はどのように対応していくのでしょうか？

ポイント1 資源枯渇が懸念される「マグロ」

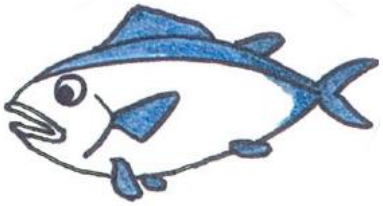
「マグロ」の漁獲高は減少傾向

■「マグロ」には、色々な種類がありますが、日本の食用として代表的なものには、「クロマグロ」、「ミナミマグロ」、「メバチマグロ」、「キハダマグロ」、「ビンナガマグロ」などがあげられます。日本は世界の「マグロ」漁獲高の3割程度、「クロマグロ」などの高級「マグロ」に限定すれば、8割程度を消費する、「マグロ消費大国」として位置づけられます。

■しかし世界の「マグロ」の漁獲量は、2003年ごろをピークに減少傾向に向かっています。中でも高級品である「クロマグロ」、「ミナミマグロ」の漁獲高は、一足早く1996年ごろをピークに減少傾向となっています。

ポイント2 「マグロ」が成魚になるには5年が必要

幼魚の乱獲が問題



■「マグロ」の漁獲高減少は、当然「マグロ」資源の減少によるものです。世界的に「マグロ」の需要が高まっているうえ、高値の日本市場に着目して、各国の漁船が競って「マグロ」を捕獲しているためです。

■また、「マグロ」は成熟するまでに、「クロマグロ」の例では約5年もの長い時間を必要とします。このため、幼魚段階での巻き網漁などでの乱獲が、資源減少に影響している模様です。

今後の展開 漁獲高規制を含む抜本的対策が不可欠

■世界の環境保護団体の中には、太平洋での「クロマグロ」捕獲の2年間停止を要請する声明を発表しているところもあるようです。これに対し、「マグロ消費大国」の日本は、むしろ積極的に漁獲規制ルールを設け、世界の「マグロ」資源の確保に努めようとしています。

■ ただし、9月2日まで開催されていた中西部太平洋まぐろ類委員会（WCPFC）では、日本側が提案していた幼魚の捕獲規制に関して、米国はより厳しい資源管理を求めて、合意に至ることができませんでした。「マグロ」が食卓から消えないように、早期の対応が求められています。

ここもチェック！
2016年8月31日　今年の夏は「猛暑」（日本）
2016年8月25日　「爆買い」に一服感？（日本）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。